

授業科目	基礎看護学実習Ⅰ		担当講師	専任教員 (実務経験のある看護師)
開講年次	1年次		単位数・時間数	2単位・90時間
科目目標	医療及び看護活動の場、患者の生活環境を理解する。 対象を身体的・心理的・社会的・文化的側面でとらえる。 対象に原理原則に基づいて看護技術を実施する。			
評価方法	基礎看護学実習Ⅰ実習要項の評価表に基づき評価する。			
学習内容				
1. 実習場所 加賀市医療センター				
2. 実習内容				
日		授業方法	内容	時間
前週	木	学内実習	実習オリエンテーション、事前学習	2
	金	臨地実習	病院ウォークラリー、病棟ウォークラリー	8
1週目	月	臨地実習	看護師のシャドウイング	8
	火	臨地実習	1人の患者を受け持ち看護展開	8
	水	臨地実習	1人の患者を受け持ち看護展開	8
	木	臨地実習	1人の患者を受け持ち看護展開	8
	金	臨地実習	1人の患者を受け持ち看護展開	8
	土	学内実習	実習の振り返り	2
2週目	月	臨地実習	1人の患者を受け持ち看護展開	8
	火	臨地実習	1人の患者を受け持ち看護展開	8
	水	臨地実習	1人の患者を受け持ち看護展開	8
	木	臨地実習	1人の患者を受け持ち看護展開	8
	金	学内実習	実習のまとめ	8
備考				
・既習の看護技術を十分練習しておく ・学内実習は、ポロシャツ、綿パンの服装で行う。				

授業科目	基礎看護学実習Ⅱ		担当講師	専任教員 (実務経験のある看護師)
開講年次	2年次		単位数・時間数	2単位・90時間
科目目標	対象を身体的・心理的・社会的・文化的側面から理解する。 対象の日常生活上の問題点を明確にし、看護を展開する。 実施した援助の追加・修正をし、患者に応じた日常生活援助を実施する。 看護の実践を通して看護のあり方を考える。			
評価方法	基礎看護学実習Ⅱ実習要項の評価表に基づき評価する。			
学習内容				
1. 実習場所 加賀市医療センター				
2. 実習内容				
日		授業方法	内容	時間
前週	木	学内実習	実習オリエンテーション、事前学習	4
	金	臨地実習	病棟オリエンテーション、病棟ウォークラリー 1人の患者を受け持ち看護展開	8
1週目	月	臨地実習	1人の患者を受け持ち看護展開	8
	火	臨地実習	1人の患者を受け持ち看護展開	8
	水	臨地実習	1人の患者を受け持ち看護展開	8
	木	臨地実習	1人の患者を受け持ち看護展開	8
	金	臨地実習	1人の患者を受け持ち看護展開	8
2週目	月	臨地実習	1人の患者を受け持ち看護展開	8
	火	臨地実習	1人の患者を受け持ち看護展開	8
	水	臨地実習	1人の患者を受け持ち看護展開	8
	木	臨地実習	1人の患者を受け持ち看護展開	8
	金	学内実習	実習のまとめ	6
備考				
・学内実習は、ポロシャツ、綿パンの服装で行う。				

授業科目	地域の実習	担当講師	専任教員	
開講年次	1 年次	単位数・時間数	1 単位 45 時間	
科目目標	地域包括支援センターにおける看護の役割を知る。 一般介護支援事業に参加している対象を理解できる。 療養施設における看護の役割を考えることができる。 療養施設で生活している対象を理解できる。 様々な療養の場に応じた暮らしを考えることができる。 看護学生として実習にふさわしい態度を身につけることができる。			
評価方法	地域の実習要項の評価表に基づき評価する。			
学習内容				
1. 実習場所 1 週目 加賀市地域包括支援センター 一般介護予防支援事業 2 週目 障がい者・障がい児の入所施設、生活介護施設、デイサービスセンター、 小規模多機能型居宅介護施設				
2. 実習内容				
日		授業方法	内容	時間
前週	金	学内実習	実習オリエンテーション	5
1 週目	月	臨地実習	地域包括支援センターの見学 一般介護予防支援事業 事業内容の観察、参加者との交流	8
	火	臨地実習	一般介護予防支援事業 事業内容の観察、参加者との交流	8
	水	演習	カンファレンス 施設の実習オリエンテーション	4
	木	臨地実習	地域の施設 療養の場の観察、利用者との交流	8
	金	臨地実習	地域の施設 療養の場の観察、利用者との交流	8
翌週	月	学内実習	実習のまとめ	4
備 考				
・実習時の心構えについてのオリエンテーションを事前に実施する。 ・地域と暮らし、暮らしを支える看護Ⅰで学ぶ地域における暮らしの環境について確認しておく。 ・参考資料 高齢者の健康と介護ガイドブック				

授業科目	地域・在宅看護論実習		担当講師	専任教員
開講年次	3年次		単位数・時間数	2単位 90時間
科目目標	地域で生活する対象の生活環境や健康状況と課題を理解する。 市保健センターにおける保健看護活動を理解する。 関係職種とその役割を理解し、連携協働の在り方を理解する。 訪問看護ステーションの実態と特徴について理解する。 疾病と障害を持ちながら地域で療養する対象とその家族の健康上のニーズと生活への影響を理解する。 在宅療養者とその家族の抱えるニーズを充足するための援助方法の特徴を理解する。 在宅ケアチームの意義とそこでの看護師の役割を理解する。 保健・医療・福祉の連携と関係職種の役割、社会資源の活動について理解する。			
評価方法	地域・在宅看護論実習要項の評価表に基づき評価する			
学習内容				
1. 実習場所 加賀市保健センター、加賀市地域包括支援センター 加賀市医療センター 訪問看護ステーションりんく				
2. 実習内容				
日		授業方法	内容	時間
前週	木	学内実習	実習オリエンテーション、事前学習	2
	金	臨地実習	1週目実習オリエンテーション 地域包括支援センター実習、検討会参加 保健センター実習 保健事業（健康診査、健康教育）の参加	8
1週目	月	臨地実習	保健センター実習 保健事業（健康診査、健康教育）の参加	8
	火	臨地実習	保健センター実習 保健事業（健康診査、健康教育）の参加	8
	水	臨地実習	保健センター実習 ミーティング 訪問看護ステーション実習のオリエンテーション	8
	木	臨地実習	訪問看護ステーション実習 施設オリエンテーション、訪問看護の同行	8
	金	臨地実習	訪問看護ステーション実習 訪問看護の同行	8
2週目	月	臨地実習	訪問看護ステーション実習 訪問看護の同行	8
	火	臨地実習	訪問看護ステーション実習 訪問看護の同行	8
	水	臨地実習	訪問看護ステーション実習 訪問看護の同行	8
	木	臨地実習	訪問看護ステーション実習 訪問看護の同行	8
	金	臨地実習	訪問看護ステーション実習 訪問看護の同行、ミーティング	8
備 考				
・服装、指定ポロシャツと綿パン、シューズ（施設内：外履き用シューズ、ステーション内：ナースシューズ）指定がある時、実習用エプロン、アイシールド着用。名札、時計、ハンカチを持参する。 ・参考資料 高齢者の健康と介護ガイドブック ・訪問時マナーを確認しておく。				

授業科目	成人・老年看護学実習Ⅰ		担当講師	専任教員 (実務経験のある看護師)
開講年次	2年次		単位数・時間数	2単位・90時間
科目目標	慢性期にある成人期、あるいは老年期患者とその家族を身体的・心理的・社会的・文化的特徴を理解する。 慢性期にある成人期、あるいは老年期患者の健康障害が患者・家族の生活に及ぼす影響を理解する。 慢性期にある成人期、あるいは老年期患者とその家族のセルフケアの確立に向けた援助を実施する。 保健医療福祉チームの連携を通して看護の役割を理解する。			
評価方法	成人・老年看護学実習Ⅰ要項の評価表に基づき評価する。			
学習内容				
1. 実習場所 加賀市医療センター、久藤総合病院				
2. 実習内容				
日		授業方法	内容	時間
前週	木	学内実習	実習オリエンテーション、事前学習	2
	金	臨地実習	病棟オリエンテーション 1人の患者を受け持ち看護展開	8
1週目	月	臨地実習	1人の患者を受け持ち看護展開	8
	火	臨地実習	1人の患者を受け持ち看護展開	8
	水	臨地実習	1人の患者を受け持ち看護展開	8
	木	臨地実習	1人の患者を受け持ち看護展開	8
	金	臨地実習	1人の患者を受け持ち看護展開	8
2週目	月	臨地実習	1人の患者を受け持ち看護展開	8
	火	臨地実習	1人の患者を受け持ち看護展開	8
	水	臨地実習	1人の患者を受け持ち看護展開	8
	木	臨地実習	1人の患者を受け持ち看護展開	8
	金	臨地実習	1人の患者を受け持ち看護展開	8
備 考				
・基礎看護学実習Ⅱで実施した看護過程展開を想起し、患者を全人的に捉え、患者の健康障害、症状、日常生活に合わせて看護を実施する。 ・バイタルサイン測定、生活援助技術の練習を十分に行ってから実習に臨む。 ・エリクソン・ハヴィガーストによる発達課題や患者の主疾患、既往歴、症状等を事前学習し、患者の発達段階、健康障害に対する看護へ活用する。				

授業科目	成人・老年看護学実習Ⅱ	担当講師	専任教員 (実務経験のある看護師)	
開講年次	3年次	単位数・時間数	2単位・90時間	
科目目標	急性期および回復期にある成人期、あるいは老年期患者とその家族の身体的・心理的・社会的・文化的特徴を理解する。 急性期および回復期にある成人期、あるいは老年期患者の回復促進・合併症予防のための援助を実施する。 急性期および回復期にある成人期、あるいは老年期患者の健康障害の程度に応じた日常生活への援助を実施する。 急性期および回復期にある成人期、あるいは老年期患者とその家族の心理的特徴に対する援助を実施する。 急性期および回復期にある成人期、あるいは老年期患者に応じた看護の特徴を理解する。			
評価方法	成人・老年看護学実習Ⅱ要項の評価表に基づき評価する。			
学習内容				
1. 実習場所 加賀市医療センター				
2. 実習内容				
日		授業方法	内容	時間
前週	木	学内実習	実習オリエンテーション、事前学習	2
	金	臨地実習	病棟オリエンテーション、手術室オリエンテーション、HCUオリエンテーション	8
1週目	月	臨地実習	1人の患者を受け持ち看護展開	8
	火	臨地実習	1人の患者を受け持ち看護展開	8
	水	臨地実習	1人の患者を受け持ち看護展開	8
	木	臨地実習	1人の患者を受け持ち看護展開	8
	金	臨地実習	1人の患者を受け持ち看護展開	8
2週目	月	臨地実習	1人の患者を受け持ち看護展開	8
	火	臨地実習	1人の患者を受け持ち看護展開	8
	水	臨地実習	1人の患者を受け持ち看護展開	8
	木	臨地実習	1人の患者を受け持ち看護展開	8
	金	臨地実習	1人の患者を受け持ち看護展開	8
備考				
・成人看護学実習Ⅰで実施した看護過程展開を想起し、急性期、回復期にある患者の健康障害、症状、日常生活に合わせた看護を実施する。 ・全身麻酔の手術を受ける患者を可能な限り、術前から受け持つ。その際、手術見学を実施することもある。 ・エリクソン・ハヴィガーストによる発達課題やムーアの生体侵襲理論、術前検査の目的・方法、一般的な術後合併症、心電図モニター・各種ドレナージについての管理方法などを事前学習しておく。 ・事前に情報提供される患者の主疾患、既往歴、症状等を事前学習しておく。 ・事前学習した内容と患者の状態を比較しながら学習を深めていく。 ・手術室オリエンテーション前に手術室の構造と設備が述べられるように事前学習しておく。				

授業科目	成人・老年看護学実習Ⅲ		担当講師	専任教員 (実務経験のある看護師)
開講年次	3年次		単位数・時間数	2単位・90時間
科目目標	終末期、あるいは人生の最終期にある成人期、あるいは老年期患者とその家族の身体的・心理的・社会的苦痛を理解する。 終末期、あるいは人生の最終期にある成人期、あるいは老年期患者の苦痛の緩和に向けた援助を実施する。 終末期、あるいは人生の最終期にある成人期、あるいは老年期患者とその家族の思いを受け止める関わりを行う。 終末期、あるいは人生の最終期にある成人期、あるいは老年期患者の援助を通し、生命の尊厳、死生観を考える。 保健医療福祉チームの連携を通して看護の役割を理解する。			
評価方法	成人・老年看護学実習Ⅲ要項の評価表に基づき評価する。			
学習内容				
1. 実習場所 加賀市医療センター、久藤総合病院				
2. 実習内容				
日		授業方法	内容	時間
前週	木	学内実習	実習オリエンテーション、事前学習	2
	金	臨地実習	病棟オリエンテーション 1人の患者を受け持ち看護展開	8
1週目	月	臨地実習	1人の患者を受け持ち看護展開	8
	火	臨地実習	1人の患者を受け持ち看護展開	8
	水	臨地実習	1人の患者を受け持ち看護展開	8
	木	臨地実習	1人の患者を受け持ち看護展開	8
	金	臨地実習	1人の患者を受け持ち看護展開	8
2週目	月	臨地実習	1人の患者を受け持ち看護展開	8
	火	臨地実習	1人の患者を受け持ち看護展開	8
	水	臨地実習	1人の患者を受け持ち看護展開	8
	木	臨地実習	1人の患者を受け持ち看護展開	8
	金	臨地実習	1人の患者を受け持ち看護展開	8
備 考				
・終末期の心理状態について事前学習しておく。 ・発達段階と関連させ、心理・社会的な苦痛を捉えることを意識する。 ・終末期の段階や患者の感情に応じて距離や言葉の配慮について考える。 ・病名がどのように説明されているか病棟の方針を事前に把握しておく。 ・グリーフケアを意識して援助する。				

授業科目	老年看護学実習	担当講師	専任教員 (実務経験のある看護師)	
開講年次	2年次	単位数・時間数	1単位・45時間	
科目目標	施設で生活する高齢者の特徴を理解することができる。 施設で生活する高齢者の日常生活について理解することができる。 生活を支えている職種の役割と連携の必要性を理解することができる。 高齢者との関りを通して、自己の高齢者観を養うことができる。			
評価方法	老年看護学実習要項の評価表に基づき評価する。			
学習内容				
1. 実習場所 特別養護老人ホーム 藤華苑（篤豊会デイサービスセンター） 介護老人保健施設 加賀中央メディケアホーム（加賀中央デイサービスセンター） 介護医療院 まごころ（吉崎の丘デイサービスセンター）				
2. 実習内容				
日		授業方法	内容	時間
前週	金	学内実習	実習オリエンテーション、施設内オリエンテーション、事前学習	5
1週目	月	臨地実習	1人の患者を受け持ち実習・デイサービス	8
	火	臨地実習	1人の患者を受け持ち実習・デイサービス	8
	水	臨地実習	デイサービス・1人の患者を受け持ち実習	8
	木	臨地実習	デイサービス・1人の患者を受け持ち実習	8
	金	学内実習	実習のまとめ	8
備 考				
・各施設の特徴を事前に学習して臨む。 ・講義で学んだ高齢者の加齢変化と、実際の利用者の状態を比較しながら深めていく。 ・高齢者とのコミュニケーションについて、高齢者の特徴を生かし行う。 ・日常生活援助は、すべて見学とする。				

授業科目	小児看護学実習Ⅰ	担当講師	専任教員	
開講年次	2年次	単位数・時間数	1単位・45時間	
科目目標	乳幼児期の成長発達の特徴を理解する。 園児の日常生活の特徴を理解する。 園児の特徴を踏まえ、発達段階に応じた援助の方法を理解する。 健全な成長発達を促すための保育環境と健康管理活動を理解する。			
評価方法	小児看護学実習Ⅰ要項の評価表に基づき評価する。			
学習内容				
1. 実習場所 加賀市内12保育園				
2. 実習内容				
日		授業方法	内容	時間
前週	金	臨地実習	保育園オリエンテーション	2
1週目	月	臨地実習	1つめのクラスに入って実習	8
	火	臨地実習	1つめのクラスに入って実習	8
	水	臨地実習	2つめのクラスに入って実習	8
	木	臨地実習	2つめのクラスに入って実習	8
	金	臨地実習	3つめのクラスに入って実習	8
2週目	月	学内実習	カンファレンス／実習のまとめ	3
備考				
・小児の成長発達の特徴を事前に学習しておく。 ・華美でない活動しやすい服装・履物で実習する。 ・小児看護学実習用の手作りの名札（7cm×7cm 布製で安全なもの）を着用する。 ・指示されたクラスに入り担当保育士とともにその日のスケジュールに沿って行動する ・教員は実習場所に常駐していないため、実習指導者と相談・確認・調整しながら主体的に臨む。 ・実習開始までに以下のことを施設に報告する ①小児感染症の予防接種（抗体値低値のもの）終了 ②実習開始1か月前の検便検査				

授業科目	小児看護学実習Ⅱ	担当講師	専任教員 (実務経験のある看護師)	
開講年次	3年次	単位数・時間数	1単位・45時間	
科目目標	発達段階・健康状態に応じた子どもとのコミュニケーション技能を理解する。 健康障害が子どもと家族に及ぼす影響を理解する。 健康障害のある子どもに必要な援助の実際を理解する。 子どもを一人の個人として尊重した援助について理解する。			
評価方法	小児看護学実習Ⅱ要項の評価表に基づき評価する。			
学習内容				
1. 実習場所 加賀市医療センター				
2. 実習内容				
日		授業方法	内容	時間
前週	金	臨地実習	実習病棟・外来オリエンテーション	5
1週目	月	臨地実習	受け持ち患児 看護展開	8
	火	臨地実習	受け持ち患児 看護展開	8
	水	臨地実習	受け持ち患児 看護展開	8
	木	臨地実習	受け持ち患児 看護展開	8
	金	臨地実習	受け持ち患児 看護展開	8
備 考				
・実習はエプロンと手作りの名札（小児看護学実習Ⅰで作成）を着用する。 ・2つのグループにわかれてそれぞれ1週間ずつ実習する。 ・小児を対象とした看護技術は全て実習指導者とともに行うこととし、学生だけで実施しない。 ・小児を対象とする実習であるため、自己の健康管理と感染対策に十分留意して臨む。				

授業科目	母性看護学実習	担当講師	専任教員 (実務経験のある助産師)	
開講年次	3 年次	単位数・時間数	2 単位・90 時間	
科目目標	妊娠・分娩・産褥期および新生児期における対象の身体的・心理的・社会的な特性を理解する。 妊娠・分娩・産褥期および新生児期における対象の健康状態を明確にし、順調に経過するための看護を理解する。 母親役割獲得に向けての援助の必要性を理解する。 地域で生活する母子の実際が分かる。			
評価方法	母性看護学実習要項の評価表に基づき評価する。			
学習内容				
1. 実習場所 加賀市医療センター 3 東病棟・産婦人科外来 ゆたか助産院				
2. 実習内容				
日		授業方法	内容	時間
前週	木	学内実習	実習オリエンテーション、事前学習、沐浴練習	2
	金	臨地実習	病棟・外来オリエンテーション、病棟ウォークラリー	8
1 週目	月	臨地実習	1 組の褥婦・新生児を受け持ち看護展開（病棟）	8
	火	臨地実習	1 組の褥婦・新生児を受け持ち看護展開（病棟）	8
	水	臨地実習	1 組の褥婦・新生児を受け持ち看護展開（病棟）	8
	木	臨地実習	1 組の褥婦・新生児を受け持ち看護展開（病棟）	8
	金	臨地実習	1 組の褥婦・新生児を受け持ち看護展開（病棟）	8
2 週目	月	臨地実習	1 人の妊婦を受け持ち看護展開（外来）	8
	火	臨地実習	1 人の妊婦を受け持ち看護展開（外来）	8
	水	臨地実習	1 人の妊婦を受け持ち看護展開（外来）	8
	木	臨地実習	助産所実習	8
	金	臨地実習	1 組の褥婦・新生児を受け持ち看護展開（病棟）	8
備 考				
・原則、正常に経過すると思われる母子を受け持つ。 ・学生 2 人 1 組で 1 人の妊婦・産婦・褥婦・新生児を受け持つ。 ・2 週間のうち 2 日もしくは 3 日は産婦人科外来で実習を行うが、受け持ち可能な母子の有無により、その都度変更する。 ・助産所実習は学生 1 人 1 日行い、開業助産師とともに行動する。				

授業科目	精神看護学実習		担当講師	専任教員
開講年次	3年次		単位数・時間数	2単位・90時間
科目目標	精神に障害を持つ対象を理解する。 精神の障害が日常生活に与える影響を理解し、必要な援助を実施する。 患者との対人関係を発展させる過程を理解し、看護師としての治療的な関わりを学ぶ。 自己の感情や行動特性に気づき、看護師としての自己のあり方を考える。 精神に障害を持つ対象への地域生活支援を理解し、看護の役割を考える。			
評価方法	精神看護学実習要項の評価表に基づき評価する。			
学習内容				
1. 実習場所 加賀こころの病院				
2. 実習内容				
日		授業方法	内容	時間
前週	木	学内実習	実習オリエンテーション、事前学習	2
	金	臨地実習	病棟オリエンテーション、1人の患者を受け持ち看護展開	8
1週目	月	臨地実習	1人の患者を受け持ち看護展開	8
	火	臨地実習	1人の患者を受け持ち看護展開	8
	水	臨地実習	1人の患者を受け持ち看護展開	8
	木	臨地実習	1人の患者を受け持ち看護展開	8
	金	臨地実習	デイケア実習	8
2週目	月	臨地実習	1人の患者を受け持ち看護展開	8
	火	臨地実習	1人の患者を受け持ち看護展開	8
	水	臨地実習	1人の患者を受け持ち看護展開	8
	木	臨地実習	1人の患者を受け持ち看護展開	8
	金	臨地実習	1人の患者を受け持ち看護展開	8
備考				
・デイケア実習の服装はポロシャツ、綿パンで行う。				

授業科目	看護の統合と実践実習		担当講師	専任教員 (実務経験のある看護師)
開講年次	3年次		単位数・時間数	3単位・120時間
科目目標	チーム医療における看護師の役割と看護のマネジメントの実際を理解する。 専門職としての自覚と責任を持ち、自己研鑽し続ける姿勢を身につける。			
評価方法	看護の統合と実践実習要項の評価表に基づき評価する。			
学習内容				
1. 実習場所 加賀市医療センター				
2. 実習内容				
日		授業方法	内容	時間
1週目	月	学内実習	実習オリエンテーション	2
	火	臨地実習	リーダー見学実習/病棟オリエンテーション	9
	水	臨地実習	メンバー見学実習	9
	木	臨地実習	管理見学実習／受け持ち患者情報	9
	金	臨地実習	複数患者受け持ち実習	9
2週目	月	臨地実習	複数患者受け持ち実習	9
	火	臨地実習	複数患者受け持ち実習	9
	水	学内実習	患者に合わせた看護技術を提供するための演習	5
	木	臨地実習	複数患者受け持ち実習（検討会）	9
	金	臨地実習	夜間実習	6
3週目	月	臨地実習	複数患者受け持ち実習	10
	火	臨地実習	複数患者受け持ち実習	10
	水	臨地実習	複数患者受け持ち実習	10
	木	臨地実習	複数患者受け持ち実習	10
	金	学内実習	演習・発表 実習のまとめ	4
備考				
・医療チームの一員として主体的に行動する。 ・未経験の知識・技術について、積極的に自ら学ぶ機会をもつ。 ・実習時間が異なる（特に夜間実習では終了時刻が遅くなる）ため、登下校には十分安全に気をつける。				